

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良く なっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・今月の売上は前年比105.7%であり、若干の増加傾向にあった3か月前と比較しても、5%以上も数字を伸ばしている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・例年6月は動きのない時期であるが、3～5月に比べて来客数が多く売上も増加しており、前年比も戻しつつある。競合店の影響は大きい、客の購買意欲が強まっているように見受けられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・客は切れ目無く乗車している。遠距離はあまりないが、近場の客がたくさん乗っている、むしろ良くなっている。
やや良く なっている	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の増加傾向が続いている。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・早めにバーゲンを仕掛けている。来客数に大きな変化はないが、スーツや礼服などの比較的高単価な商品を購入する客が多く、単価が上がっている。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・大手自動車メーカーの燃費不正問題の影響により新車販売台数が減少しているものの、中古車販売及びサービス入庫が増加しており、売上は持ち直してきている。	
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月以降、今までと違う風が吹いているのか、景気は少し良くなってきている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊部門は前年を少し下回っているものの、宴会部門においては受注量が伸びている。また、レストラン部門も前年を多少上回っている。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・閑散期ではあるが、お得感のある企画を実施しており、前年並みの来客数を確保している。	
	その他サービス[自動車整備業]（経営者）	販売量の動き	・単価、総額共に好調を維持している。	
変わらない	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・小額の資金で購入可能な小さな住宅用地の開発を行っているため、新築住宅の受注が伸びている。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・非常に静かであり、不気味なほど変わらない。周囲の様子をみても景気が良さそうでも悪そうでもない。奇妙な冷静さがある。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・天候にも恵まれて来街客は増えている。それに伴い、ファーストフード店や一部の飲食店では売上が増加している。しかし、同業でも苦戦している店もあるため、総じて景気が良いとは言えない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・好天が続く、商店街のイベントなども増えている。しかし、通行量や来客数の動きは今までと変わらないため、景気が上向いているとまではいえない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街でのイベントによる来客数は例年並みである。しかし、前年のプレミアム付商品券のような起爆剤がなく、全体の売上は横ばいである。	
	一般小売店[カメラ]（店長）	販売量の動き	・販売量は横ばいで推移しているものの、高額商材の動きが鈍く、売上が伸び悩んでいる。	
	百貨店（総務担当）	単価の動き	・オケージョンニーズである父の日、母の日において、全体的に単価が下がっている。また、来客数も減少している。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・高額商材の動きが鈍く、比較的堅調であったハイエンドの商品の売上が特に落ち込んでいるが、化粧品は相変わらず好調であり売上を伸ばしている。また、婦人服は苦戦が続いているものの、前年の大型ブランド撤退の影響は減少してきている様子である。ただし、全体的に前年の売上を下回っている傾向に変化はない。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・地方ではアベノミクスの効果が実感できないため、消費の活発な動きはみられない。	
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・前年同時期に比べて高額商材の動きが鈍く、販売量は変わらないものの単価が下がっている。しかし、日傘、帽子などの季節商材は前年並みに回復してきている。	
	スーパー（経営者）	単価の動き	・6月は平均単価が前年比で3%ほど低下している。また、買上点数はやや伸びているものの、来客数は前年並みである。この傾向は今までとほとんど変わっていない。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・ここ数か月、客単価の前年割れが継続している。	

スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数、客単価共に微増のため、売上も若干増加している。その一方、1品単価が少し低下しているため、今後の予断を許さない状況である。
スーパー（営業担当）	来客数の動き	・売上と来客数の伸びが鈍くなってきている。販促を強化しているが、ここにきて競合他社も価格戦略を強化しており、それをみながら客も動いている。そのため、販売点数を増やし、客単価で来客数の減少をカバーしている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・決算時期である3か月前と比較しても横ばいで推移しており、景気が良くなっているという実感はない。人が少なく、客単価も横ばいである。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客の動きに特に変化はない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競争環境が激しく、1店舗に対する来客数も減っていくばかりである。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数自体にほとんど変化はないが、客単価の上昇により、前年と比較して売上が若干伸びている。
コンビニ（店長）	お客様の様子	・気候が良く、農繁期ということもあり期待したいところではあるが、結果としてそれほどの数字にはなっていない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・例年より早めにサマーセールを実施しているが、売上への効果は全くない。客が買物に対してますます慎重になっており、来客数が増えずに単価だけが下がる結果となっている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の財布のひもが固すぎて、なかなか身の回りの商品が動かない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・一向に景気が良くなる気配がなく、収入も上がらない。消費税増税が再延期となったが、あまり気前よく支出ができるような状況ではないと客は話している。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・全体的にセールに対するレスポンスが高く、価格にシビアな客層が多い。そのため、客単価が下がっている。
衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数が減少傾向にあるが、買上点数を増やす接客努力により、前年比90%の状態である。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・人口減少の影響により、来客数が年々減少している。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月はエアコンの売上が前年比115%と好調であり、その貢献を受けて全体的な売上も前年比110%と伸びている。ただし、テレビ、パソコン、洗濯機や冷蔵庫といった白物家電の売上は伸びていない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月も軽自動車の販売ができず、その分販売台数が伸びていない。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・3か月前ほどではないが、例年と比較すれば今月はまあまあの販売量となっている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・郊外のショッピングセンターに人が集まっているが、商店街には人の流れがほとんど無い状態である。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・4月から全体的に商品の動きが悪くなってきており、特にレギュラー商品が悪い。
その他専門店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・例年よりも早く暑くなったため販売量の増加を期待したが、結局は横ばいとなっている。飲食店からも、先行きが不透明であり現状維持が精一杯であるという話を聞いている。当社も同様であり、政治、経済への不安が消費者の行動に顕著に表れている。
その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・気温が上がらず天気も不安定なため、サンダルなどの夏物商材が売れていない。子供靴とスニーカーには動きがあるものの、全体をカバーするまでには至っていない。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・いまだに前年の暖冬の影響が抜け切れていないのか、春先から夏にかけての商品の動きが鈍く、動き出すのにも時間がかかっている。繁忙期は6月で終了のため、これからの売上が心配である。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・いまだに暖冬の影響を引きずっており、販売量の前年割れが続いている。さらに、仕入価格が上昇しているにもかかわらず末端価格に転嫁できないため、収益が落ち込んでいる。また、除染作業が一段落したことで、好調であった軽油の販売量も激減している。そのため、総じて景気の悪い状態で安定してきている。

高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・リピート層の反応に鈍さがみられるものの、客単価が上昇傾向にある。しかし、ここ数か月は来客数の減少による影響をカバーできた時期とできない時期があり、客の動きに見通しが立たない状態である。	
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・値上げにより減少していた来客数が戻りつつあり、前年比100%となっている。	
一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・日によって売上のばらつきが激しく、来客数が多くても個々の売上などはかなりばらばらである。それほど悪くないと言っている客は多いが、その一方で深刻な状況であるという客もあり、一体景気が良いのか悪いかわからない状況である。	
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・東北の宿泊業は依然として先行きが見えない状態が続いている。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・季節要因による動きの鈍さはあるが、良くも悪くもなく、大きな変動はない。	
観光型旅館(スタッフ)	単価の動き	・来客数は順調に推移している。ただし、消費者は相変わらず低単価志向であり、低価格で数売するという傾向が続いている。	
旅行代理店(店長)	お客様の様子	・参議院選挙、英国のEU離脱問題などマイナス的な話題が多く、出控える傾向にある。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・依然として個人客の動きが鈍化している。	
タクシー運転手	お客様の様子	・前年12月の地下鉄新規路線開通の影響が、かなり出てきている。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・年金が貰えないなどの理由から70代目前の女性と男性が面接に来たが、今後はこのような高齢者の就活が増えてくるとみている。高齢者に所得格差が生じてきているのではないかと。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税が再延期となったが、売上は横ばいの状態である。客へのヒアリングからも、景気の上向き感は見られない。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化はなく、景気も変動していない。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・値下げ要求が多く、商品が売れない状態が続いている。	
観光名所(職員)	それ以外	・団体客は減少しているものの、フリー客は順調のため、全体的には横ばいで推移している。	
遊園地(経営者)	来客数の動き	・梅雨時期にしては珍しく週末の天候が崩れなかったことと、学校、団体の利用がそれなりにあったことで、来客数は堅調に推移している。一方、単価は前年より弱含んでいる。	
その他住宅[リフォーム](従業員)	販売量の動き	・大型の工事が増えており、売上が前年を超過して予算を達成している。しかし、今後につながる受付は前年に届いていない。	
やや悪くなっている	一般小売店[書籍](経営者)	販売量の動き	・地方の景気回復が見通せないことから、消費者は一層買い控えに走っている。
	一般小売店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・来客数は前年比97.3%であり、今月は前年をクリアすることが難しい状況である。客の流れが悪く、いつもより落ち込んでいる印象がある。来客数が少ないと売上にも影響するため、今月は少し苦戦をしている。
	百貨店(売場主任)	単価の動き	・これまで比較的安定した買物をしてきた上位顧客層にも、低単価帯へ移行する傾向がみえ始めている。
	百貨店(買付担当)	単価の動き	・前年より単品買いが多く、前月と比較しても一気に単価が下がっている。ハウスカードのポイントアップでも、定価品よりセール品が稼働している。
	百貨店(売場担当)	来客数の動き	・来客数が落ち込んでいる。顧客動員策により売上の確保はできているものの、新規客を顧客へとつなげて、再来店をしてもらうことが非常に難しい。
	スーパー(経営者)	来客数の動き	・既存店の来客数が落ち込み始めている。
	スーパー(営業担当)	単価の動き	・来客数は前年並みで推移している。ただし、天候が不順なこともあり、夏物商材の不振が続いている。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・3か月連続で来客数が前年を下回っている。特に、揚げ物やコーヒーなどのカウンター商材の販売量低下が著しい状態である。
	衣料品専門店(店長)	単価の動き	・セールを開催して集客をしても、超特価商品のみが売れて通常のセール品が売れないため、客単価が大幅に低下している。
	乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・平日も土日も、来客数が明らかに減少している。

		住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・小型で安価なものを求める客が多く、大型の高額商材が売れていない。そのため、売上、利益共に減少している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・コスト上昇、販売価格の値上げにより、販売量は一段と減少している。また、燃料油のみならず他の商品の販売量も落ち込みがみられている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・レストランを利用する客が年々減少している。休日に少し背伸びをしてリッチな気分になりたいということもないのか、3か月前と比べても、レストラン離れ、高級志向離れが進んでいるように見受けられる。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・温暖化によりさくらんぼの収穫時期がかなり早まったため、農家は人手の確保に苦労したと聞いている。また、収穫に携わった人達が夜に外出しなかったことと、収穫時期がずれたことにより高額な時給で人手の確保を行った農家も多かったため、収穫後の打ち上げなども激減している。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は例年に比べて宿泊人数が減少している。このことから、景気は悪くなっていると実感している。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・今月は大きな売上が見込めるようなイベントがなく、そのことが、会合などの参加人数の減少にもつながっており、単価もそれほど伸びていない。宿泊に関しても、今月はインパウンドの客をあまり見かけていない。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・法人の宴会予約、利用件数共に前年を下回っている。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・数か月前から景気の下傾向が続いており、悪い状況から更に悪くなってきている。来客数の前年比も数か月前より落ち込んでおり、回復の兆しが全くみえない状況である。
		旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・団体旅行はそれほどの変化はないが、個人旅行の販売量が落ち込んできている。客が出控えており、来客数が減少していることも原因のひとつであるが、特に海外旅行の落ち込みが顕著である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・最近はずっと乗控えがひどくなってきている。客の景気に対する不安を実感している。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・ボーナス月を目指してキャンペーンを展開しているが、今一つ反響がみられない。費用をかけて宣伝しているが、コストに見合った効果がなかなか得られていない。
		競艇場(職員)	来客数の動き	・来客数が急激に落ち込んでおり、前年と比較しても、今月の売上が一番悪い状態である。
		美容室(経営者)	単価の動き	・新たなメニューに対する反応が鈍く単価が下がっている。
	悪く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・地下鉄新規路線開通によるバス路線変更により、来客数が激減している。
		一般小売店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・駅前に大型商業施設がオープンして3か月が経過したが、駅周辺に客が集中しており、繁華街及び商店街では来客数が10%減少していると聞いている。同様に当店も前年比10%マイナスの状況が続いている。
		一般小売店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・この数か月、客単価が上昇し良好な月もあったが、来客数は確実に減少傾向にある。3月後半から来客数が顕著に落ち込み始め、いまだに回復の兆しがみえていない状態が続いている。
		スーパー(経営者)	お客様の様子	・客は明らかに節約志向を強めており、買い回りをするようになっている。ゴールデンウィーク明けからは、競合他社においてもデフレ価格が広まっており、客の財布のひもは一層固くなっている状況である。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・近隣に新しい競合店が出店したわけではないのに、来客数の減少が続いており、売上も減少している。地下鉄の新規路線が開通したことで客の流れが変化したとしか考えようがない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・来客数が大幅に減少している。前年と比べても来客数は減っており、かなり悪い状況である。
企業 動向 関連 (東北)	良く なっている やや良く なっている	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・復興関連の公共事業に加えて、一部の民間案件の発注も上向きとなってきている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・小口工事の受注件数が増えているため、若干ではあるが景気は上向いている。
		輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・物量は安定している。

変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・天候に恵まれて、さくらんぼの品質が良い。そのため、販売価格も例年並みとなっている。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が前年を上回っているものの、売上が落ち込んでいた前年との比較のため、景気が良くなっているという実感はない。	
	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量の前年割れに歯止めがかからない状態である。	
	木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の価格が安く、収益の改善が進んでいない。	
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏に向けて積極的に広告を出す動きがあるものの、印刷の発注権限が東京などの本社管理となっている会社が増えている。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量の前年比はほぼ横ばいである。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・零細企業でも仕事量はほぼ横ばいの状況であり、あまり大きな変化はない。	
	建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・契約の更新にあたり、顧客が他社へと切替る案件が増加傾向にある。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・投資をする企業が増えていない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・政治問題、海外情勢、円高株安の状況から、投資意欲が低下している。	
	公認会計士	取引先の様子	・建設業はおおむね好調である。小売業、サービス業は売上、利益共に前年比が減少しているものの、赤字に転落した企業は少ない。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・取引先である折込チラシ印刷の扱いが多い印刷会社では、夏季賞与の率が前年比マイナス5%となっているようであり、数社が同じ傾向との話である。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・初夏の果樹であるさくらんぼ価格が、例年にない低価格となっている。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・旅行者が少なく、お土産の販売量にも影響している。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・熊本地震の影響で受注量が減少している。また、円高の影響で輸出採算が悪化している。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体全体の市場価格は下げ止まっており、改善する気配がない。	
	広告業協会（役員）	それ以外	・広告業界では選挙のある年は不況になるといわれている。今年もそのジンクスは破れない様子であり、6月後半は苦戦をしている。例年この時期は上向きになるのだが、今年はマスメディア、折込広告、その他の広告業種も思わしくない状況である。	
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・選挙関連で多少の仕事は増えたものの、全体的に受注量が減少している。また、今は来年度のカレンダーの発注時期となっているが、各社の作成部数が前年より確実に減少している。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・参議院選挙が始まったことで、消費を手控えるようなムードが漂っている。	
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が3か月前と比べて10%ほど減少している。受注量も前年を上回るほどの勢いはみられていない。	
悪くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・個人消費がますます落ち込んでいる様子である。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・売上は前年比で5%減少しており、粗利益では10%の減少となっている。地元では、コンビニ、量販店、スーパー、激安店などが客の奪い合いをしており、消費者の財布のひもがかなり固いことを実感している。	
雇用関連 (東北)	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・新規登録者が3か月前から増加に転じており、受注に対する引当率が改善したため、売上の前年比が大幅に伸び利益率も0.6%上昇している。その結果、前年の赤字が反転し大きく黒字化している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・継続して中途採用を行っていきたいと考えている企業が増えているため、求人数が増加している。また、中途採用を行う理由は、欠員補充ばかりではなく今後を見据えた理由が散見される。

	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・紹介予定派遣を活用して、直接雇用後に正社員として採用するといった募集が増えている。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・大学生の新卒採用をしている企業は、採用の予定人数を絶対に獲得するために求人活動を継続している。特にIT関連、物流関連の企業は1人でも多く獲得するための求人活動をしている。具体的には、地元大学の学内のガイダンスにおいて、予約人数が1名でも人事の人間がその1名のためだけに東京からやってくるといった状況が生まれている。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求職者数は微増しているものの、求人とのミスマッチが多い。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・業種や条件などによる求職者の偏りは相変わらず顕著であり、人材確保における勝ち組と負け組の二極化がますます進んでいる。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・新聞求人の特徴的な動きはなく、低水準で推移している。
	職業安定所 (職員)	それ以外	・新規求職者数の前年比は引き続き減少傾向が続いているが、新規求人数も2か月連続で減少しているため、結果として大きな変化とはなっていない。
	職業安定所 (職員)	採用者数の動き	・特定の業種からの求人はあるものの、不人気業種ばかりである。求職者数が減少していることも相まって新規雇用が進まない状況である。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求人倍率は前月を0.07ポイント下回っている。しかし、相変わらず建設業、医療、福祉業、その他サービス業は人手不足であり、高止まり状態が続いている。求職者も在職求職者の割合が高く、登録してもなかなか紹介に結びつかないケースが増えている。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数、月間有効求人数共に前年を上回っている。しかし、更新求人が多く、人手が確保できないまま、求人が更新されるといった状況が続いている。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・前月、11か月振りに前年比が減少に転じた新規求人数が、今月は2けたの伸びとなっている。また、月間有効求人数も1けたながらも増加するなど、求人数は緩やかな増加傾向となっている。今月は新規求職者数も微増しており、有効求人倍率は10か月連続で1.0倍台となっている。そのため、求人が多いという傾向に大きな変化はなく、求人からみた景況感に大きな動きはない。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求人数の前年比は4か月連続で減少している。また、新規求人数も減少が続いているが、状況に大きな変化はみられない。
職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共にほぼ横ばいで推移しており、特別に大きな変化はみられていない。	
やや悪くなっている	アウトソーシング企業 (社員)	それ以外	・受注量が少なく、予約もあまり入っていない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・選挙になると経済が止まるといわれているが、選挙の成り行きをみているのか、求人の動きも停滞している。加えて、英国のEU離脱問題なども市場に不安を与えているのではないかと。
悪くなっている	-	-	-